

令和 7 年 度 事 業 報 告 書

(令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日)

事業の状況

令和 7 年度の事業では平安書道研究会 900 回記念展「極上の仮名－王朝貴族の教養と美意識－」を五島美術館・日本経済新聞社との共催で開催した。総入場者数は約 14000 名を数え、各方面からも高い評価をいただき、非常に意義のある展覧会となった。通常の事業は全体として例年通りの内容で開催することができ、連合書道展の出品者数は新規加入団体のおかげもあり若干の減数にとどまった。引き続き出品者の増加を図るため施策が必要である。平安書道研究会の入学者はほぼ予定通り確保することができた。引き続き多くの卒業生に特待生として残ってもらうための方策を講じていきたい。

1. 書道文化の普及（第 4 号事業関係）

(1) 書道文化の普及のための春敬記念書道文庫収蔵品の貸し出し

1. 平安書道研究会（主催：一般社団法人書芸文化院）令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月
毎月 1 回、第 901 回～第 912 回を実施した。各回テーマに沿った古筆を 5～6 点ずつ露出展示。
2. 第 64 回現代かな書道専門講座（主催：かな書道作家協会）令和 7 年 4 月 29 日
伝紫式部筆「久海切」、伝藤原公任筆「荒木切」、など 5 点の貸し出し。
3. うつくしきかな－平安の美と王朝文化へのあこがれ－ 令和 7 年 3 月 15 日～6 月 8 日
(MIHOMUSEUM 主催) に伝紀貫之筆「高野切第一種」、伝藤原行成筆「古今集切」など 14 点を貸し出し。
4. 徳川美術館開館 90 周年記念特別展「国宝 源氏物語絵巻」令和 7 年 11 月 15 日～12 月 7 日
(徳川美術館主催) に源氏物語絵巻詞書断簡「松風」・「末摘花」ほか 2 点を貸し出し。
5. 平安書道研究会 900 回記念特別展「極上の仮名－王朝貴族の教養と美意識－」
令和 7 月 24 日～8 月 3 日（書芸文化院・五島美術館・日本経済新聞社共催）に本院の収蔵品から 90 点を展示した。

(2) 写真の掲載許諾

1. (有)書芸文化新社発行の『古筆カレンダー2026』に伝藤原行成筆「大字和漢朗詠集切」、伝藤原為家筆「色紙」など 5 点のカラー掲載を許諾。
2. 一般財団法人日本書道美術院発行の『書道美術 2026 年 1～12 月号』の表紙写真として伝藤原行成筆「針切」を許諾。
3. 芸術新聞社「墨」295 号企画「飯島春敬のしごと」に小野道風筆「絹地切」ほか 20 点を掲載許諾。
4. NHKエデュケーショナル「高校講座 書道」に伝空海筆「隅寺心経」、藤原佐理筆「国申文帖」を掲載許諾。

5. 小学館発行 月刊「サライ」10月号に伝藤原行成筆「古今集切」、伝小野道風筆「小島切」2点を掲載許諾。
6. 大分県書道指導者連合会発行「大分県書道」に伝藤原行成筆「古今集切」を掲載許諾。
7. 大修館書店発行の高校教科書「書道1教授資料」に伝空海筆「隅寺心経」を掲載許諾。
8. 「極上の仮名－王朝貴族の教養と美意識－」展図録（勉誠社発行）に日本と中国の本院収蔵品の写真を90点掲載許諾。

2. 書道に関する展覧会の開催（第5号事業関係）

(1) 「第76回連合書道展」、「第39回関東女流書展」の開催

書道の奨励・育成を目的にした「第76回連合書道展」を令和7年9月1日より8日まで東京都美術館において開催した。参加団体は13団体。総出品点数は405点（前回407点）。

観客入場者数のべ3700名（前回3906名）であった。今年度も席上揮毫を開催し、数百名の観覧者を得た。また、特別企画として、「第39回関東女流書展」を開催した。関東地方で活躍する女流書家による展覧会で、漢字・仮名・新書芸などの各部門に180点（前回178点）の出品があった。連合書道展の一環として行っている平安書道研究会の受講生による第7回「臨書コーナー」は23点（前回20点）の出品があり、第5回「学生部展」は24点（前回21点）の出品となった。

3. 書道専攻者の養成（第7号事業関係）

(1) 平安書道研究会の開催

昭和25年から、毎月1回古筆を出陳して鑑賞し、日本書道史研究に必要な専門的内容を学ぶ平安書道研究会を開催。令和7年度は、令和7年4月（901回）から令和8年3月（912回）まで、会場を東京国立博物館平成館大講堂及び五島美術館などで開催した。毎回130名を超す熱心な参加者を得ている。期末テスト・卒業レポートなどで学生のレベルの向上が見られるのは喜ばしいことである。

「臨書実技講座」は令和7年9月28日に高木厚人先生と大賀晴苑先生、渡辺貴彦先生の3名の講師により、受講生40名で実施。課題は「高野切第一種」と「寸松庵色紙」とした。平安書道研究会での添削指導とは違った指導を受けることが出来、毎回好評である。

令和4年5月に入学した第66期生29名が令和7年5月に3か年の全課程を終えて卒業した。令和7年度の第69期入学生は40名であった。講師の先生方や正会員の先生方の積極的なご支援とHP、DMその他の宣伝効果により多くの入学者を迎えることが出来た。

4. その他

(1) ホームページの充実

ホームページの認知度も上がり、受講生からの反応も目立つようになった。今後も内容の充実を図り、受講生のみならず一般への重要なPR用ツールとして活用していきたい。

令和7年5月に「極上の仮名」展を紹介する動画を制作し展示会の宣伝を図った。同時に「平安書道研究会の一日」を紹介する動画を公開して、研究会への入会を促した。

URLは <http://shogeibunkain.jp/> である

(2) 講師の先生を囲む会の開催

令和8年2月8日開催の平安書道研究会終了後、東京都美術館のレストラン「ミューズ」に於いて、恒例の「講師の先生を囲む会」を開催した。客員講師と臨書指導講師及び理事、正会員の総勢76名の方々(内受講生56名)が集い、熱心な意見交換も含め和気あいあいのうちに2時間はあっという間に過ぎた。受講生からも普段なかなか話が出来ない講師の先生方と交流が出来て、とても楽しかったという感想が多く聞かれた。

以上